

## CONTENTS

[特色GPとは?](#)[学長・学部長あいさつ](#)[経済学基礎知識1000題とは?](#)

- [▶ 選定理由・これまでの取組](#)
- [▶ 教育効果を上げる工夫](#)
- [▶ 自学自習システムの活用](#)
- [▶ 自学自習システムの有効性と成果](#)
- [▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!](#)

[特集1「進化する自学自習システム」](#)[特集2「政策学基礎知識1000題」](#)[特集3「ブレンディング・授業体験」](#)[教員VOICE](#)

- [▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題](#)

[学生VOICE](#)

- [▶ 学生の利用方法・利用成果](#)

[2007年度 活動内容](#)[イベント情報](#)[イベント開催報告](#)[今後の展開](#)[✉ お問い合わせ](#)

文部科学省GP採択シンポジウムを開催します。

**「現代の若者気質を活かす教育」****—IT利用、フィールドワーク、学生ケアのあり方—****参加無料／定員200名****開催日時**

2008年7月26日(土)13:30～16:40

**開催場所**

名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎101教室

会場までのアクセスは[こちら](#)**開催内容****講演(13:30～14:55)****○大学教育の行方****—変貌する若者・高校と求められる能力の狭間で—**お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科  
教授 耳塚寛明氏**○「就職」から見た現代の大学生の課題**独立行政法人労働政策研究・研修機構  
主任研究員 小杉礼子氏**トークセッション(15:05～16:40)****○名古屋学院大学におけるIT利用、フィールドワーク、学生ケアについて****—特色GP、現代GP、学生支援GPの取組を中心に—**

名古屋学院大学

経済学部 准教授 黒田知宏

経済学部 教授 水野晶夫

キャリアセンター長 三井哲

**○ディスカッション****●パネリスト**

耳塚寛明氏、小杉礼子氏、

名古屋学院大学

経済学部 教授 古池嘉和

経済学部 教授 児島完二

学生部長 小林甲一

**●コーディネーター**

名古屋学院大学 経済学部長 木船久雄

**ポスターセッション(12:00～17:00)**

名古屋学院大学における特色GP、現代GP、学生支援GPの選定取組に関して、ブース形式で担当者がご質問等に対応します。ぜひお立ち寄りください。

**お申し込み方法**

EメールまたはFAXにて下記宛先までお申し込みください。

**○Eメール**

タイトルを「GPシンポジウム参加希望」とし、お名前、住所、所属(勤務先・役職)、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上お申し込みください。

**○FAX**

下記講演会の詳細(PDFデータ)をダウンロードいただき、2ページ目の申し込み用紙に必要項目をご記入の上お申し込みください。

※お申し込みは定員になり次第、締め切らせていただきます。

**○お申し込み先・お問い合わせ先:総合政策部****○Eメールアドレス: upr@nagau.ac.jp**

TEL:052-678-4085 FAX:052-682-6812

FAXによるお申し込み、開催内容に関する詳細は[こちら](#)[「文部科学省GP採択シンポジウムJA4チラシ 2ページ目申込用紙\(4/248KB\)](#)

このページのトップへ

## CONTENTS

- [特色GPとは?](#)
- [学長・学部長あいさつ](#)
- [経済学基礎知識1000題とは?](#)
  - [選定理由・これまでの取組](#)
  - [教育効果を上げる工夫](#)
  - [自学自習システムの活用](#)
  - [自学自習システムの有効性と成果](#)
  - [学習の流れ・実際の画面を見てみよう!](#)
- [特集1「進化する自学自習システム」](#)
- [特集2「政策学基礎知識1000題」](#)
- [特集3「フレンチテラーニング」授業体験](#)
- [教員VOICE](#)
  - [教員から見た経済学基礎知識1000題](#)
- [学生VOICE](#)
  - [学生の利用方法・利用成果](#)
- [2007年度 活動内容](#)
- [イベント情報](#)
- [イベント開催報告](#)
- [今後の展開](#)
- [お問い合わせ](#)

## 「特色GP公開講演会2007」 開催報告

2007年6月20日(水)、15時30分より本学名古屋キャンパス白鳥学舎にて、「特色GP公開講演会2007」が開催されました。当日は、学内外より108名の参加者がありました(大学関係18名、一般5名、本学教職員80名、学生5名)。また、講演会の模様は、本学瀬戸キャンパスにもライブ配信されました。

### 公開講演会の成果

講演会のテーマICT活用による大学教育の質の向上では、eラーニング、教育の質向上という高等教育をめぐる2つの大きなトピックを扱っています。参加者の状況は学内外の大学関係者の関心を反映したものといえます。国内外の最新の動向を踏まえて、eラーニングと教育の質向上をいかに統合するかという視点を養えたことは大きな成果でした。

### 今後の事業への反映

当日の講演会に先立ち、学内において、FD研修会・職員研修会として「IT活用講習会」を開催しました。取組を充実・発展させていためには、日々の授業を実践する教員はもとより、それを支援する職員の能力向上が必要不可欠になっています。本講演会を契機としてTFD・SD活動を一層推し進め、教育の質向上に努めていきたいと考えています。

開催案内は[こちら](#)(795KB)



### 2006年度特色GP活動報告

講演に先立ち、経済学部講師の黒田知宏より、特色GP選定後の取組内容について報告がありました。

特色GPの選定を契機に、経済学部では特色GP推進委員会を設置し、「経済学基礎知識1000題」に関する取組の充実・発展に努めています。2006年度の主な活動として、携帯電話による自学自習システム利用を可能とし利便性を高めたこと、経済学とは別に「政策学1000題」の問題を整備したこと、入門科目の授業内容・試験内容の標準化の推進、自学自習センターの配置などが述べられました。また、経済学部の取組が他学部にも波及し、全学的に自学自習システムの設計図が増加していること、FD研修会・職員研修会でIT活用講習会を開催するなど、教職員の意識が高まりつつあることが述べられました。

今後の課題として、自学自習の問題に対して動画や音声の解説をつけること、高大接続や社会人教育への適用、学生による評価を通じた授業の質向上などがあげられました。

### 講演会「ICT活用による大学教育の質の向上」

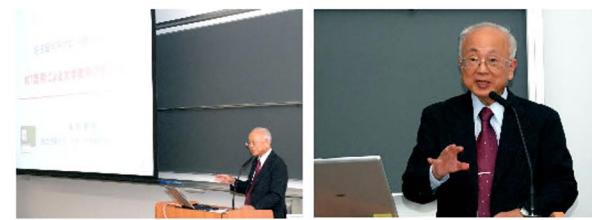
活動報告に続き、独立行政法人メディア教育開発センター理事長の清水康敬氏から、「ICT活用による大学教育の質の向上」をテーマとした講演が行われました。

大学教育の質の向上が求められる背景として、大きく「大学全入時代」「産業界のニーズとのミスマッチ」が指摘され、ICT活用がキーワードになると述べられました。大学全入にともない、多様化した学生に対応するリメディアル教育が大きな課題になっているけれども、個別大学で対処するのは限界があり、共通のeラーニングを活用した環境を用意してはどうかとの提案がありました。次に、大学が養成する卒業生の能力、知識やスキルや行動が、産業界のニーズにあっていないことが説明されました。産業界はコミュニケーション能力を最も重視していること、日英米の企業に調査した結果、6割が専門的な能力よりも部署に関係ない共通的な能力を重視していることが報告されました。

教育の質の保証という観点で、ICTを活用した教育だけでなく、対面授業を考えるとともにインストラクショナルデザインという考え方方が非常に効果的と述べされました。インストラクショナルデザインのステップとして、(1)分析、(2)設計、(3)開発、(4)実施、(5)評価それぞれに聞いて説明がありました。続いて、eラーニングの質を高める視点として、(1)開発段階における視点、(2)運用時の支援に関する支援、(3)機関の体制に関する視点、(4)評価を通じた質の向上に関する視点に関して、詳細なチェック項目が示されました。

最後に、eラーニングはICT活用というプロセスの違いはあるけれども、教育内容は対面授業と同一であり、習得した学生の成果によって質が問われる。また、eラーニングが対面授業の質を高めるために使用される事例が増えており、ICTを活用した教育においてはサポートするシステムが重要と述べられました。

講演終了後の質疑応答では、会場からさまざまな質問が寄せられました。清水氏は「どんな授業も必ずICTを使えば良い」という訳ではない。学生にレスポンスを求めるなど、双方向でコミュニケーションを行うことで、学生の記憶情報量はアップします」と語り、伝える側の技術や熱意あってこそそのテクノロジーであることが強調されました。



独立行政法人メディア教育開発センター理事長 清水康敬氏

## CONTENTS

## 特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- > 選定理由・これまでの取組
- > 教育効果を上げる工夫
- > 自学自習システムの活用
- > 自学自習システムの有効性と成果
- > 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンテックラーニング」授業体験

## 教員VOICE

- > 教員から見た経済学基礎知識1000題

## 学生VOICE

- > 学生の利用方法・利用成果

## 2007年度 活動内容

## イベント情報

## イベント開催報告

## 今後の展開

## お問い合わせ

## 2006年度 文部科学省 特色GP選定記念 「教育の情報化シンポジウム」 開催報告

多数のご参加、ありがとうございました。



2006年12月15日(金)、13時30分より名古屋ガーデンシティにて、2006年度文部科学省・特色GP選定記念「教育の情報化シンポジウム」が、160名の参加を得て開催されました(大学関係者48名、高校教師7名、一般84名、本学教員・学生21名)。また、シンポジウムの模様は、NPO法人CCC-TIESホームページを通じてライブ配信されました。

ライブ配信はこちらから

開催案内はこちら(1920KB)

開催報告書はこちら

## シンポジウムの成果

シンポジウムの最大の成果は、大学関係者から一般の方までを対象に、大学教育におけるeラーニングの現状と課題、特色GP選定事例に見られる教育上の工夫等について認識を深めていただいたことです。皆様からはアンケートを通じて、「eラーニングの可能性、有用性について認識できた」「基礎講演の内容を全教員に聞かせたい」「IT利用のメリットについてかなり理解できた」「特色GPの具体的な内容が分かった」「教員の熱心な姿や考えに共感した」など、多数のコメントをいただきました。

また、大学関係者は北海道から九州まで、80%が愛知県外からご来場いたたいており、文部科学省の特色GPプログラムやIT、eラーニングへの関心に直接応えることができたことは有意義でした。

## 今後の事業への反映

シンポジウムは、ITやeラーニングの専門知識が無い方にも理解いただけたように企画した反面、「新世代型のeラーニングの話を聞きたい」といった要望もありましたので、今後のテーマ設定・運営方法の工夫改善につなげたいと考えております。

シンポジウムを通じて、eラーニングをいかに授業改善・大学改革に役立てるか、教職員・大学組織に必要な意識・支援体制とは何か、具体的な事例も交えて情報提供をいたいたしたこと、自己点検・評価の機会となりました。アンケートでいただいたご意見・ご要望も踏まえて、本学取組をより充実・改善していく予定です。



## 第一部 講演「eラーニングの現状とIT活用」

## 基調講演「eラーニングの現状と課題」



(社)私立大学情報教育協会事務局長 井端正臣氏

(社)私立大学情報教育協会事務局長の井端氏から「eラーニングの現状と課題」をテーマに基調講演が行われ、eラーニングの定義、授業で直面している問題、授業改善の方向性、eラーニングの現状、授業設計のモデル、教員の課題、大学としての課題について、熱心な説明をいただきました。

## 特色GP選定事例報告

基調講演の内容を受けて、本学と帝塚山大学による特色GP選定事例報告が行われました。

本学経済学部長の木船からは、選定取組「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」について、取組の特色、実施体制、教育上の効果、今後の展開、今年度の進行状況について詳細説明がありました。

帝塚山大学の中嶋教授からは、同大学を中心とした大学間連携によるeラーニングシステム「TIES」の特徴が「学生のためのeラーニング」と「教員のためのeティーチング」の融合であり、FD活動に寄与するものとの説明がありました。

「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」  
本学経済学部長 木船久雄「大学におけるeラーニング教育の事例」  
帝塚山大学経済学部教授 中嶋一氏

## 第二部 パネルディスカッション「教育とIT活用の将来」

第1部で、大学教育におけるIT活用の現状・問題点が提起され、第2部では、4名のパネリストを迎えて、教育ジャーナリスト、新聞社、高等学校、大学それぞれの視点から、「教育とIT活用の将来」について話題提供があり、フロアからの質問も交えて活発な議論が交わされました。



司会：本学商学部教授 皆川芳輝

## パネリスト

高等教育総合研究所  
亀井信明氏

大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、大学改革のポイントとなる、「大衆化・多様化への対応」「教育力・指導力の強化」「コストダウン」について、eラーニングが今後ますます有効になるとの説明がありました。

中日新聞社社会部  
間野丈夫氏

学生との共同企画による紙面作成において、学生がインターネットをフル活用しているエピソードが紹介され、その反面、情報収集をネットに頼りすぎてしまうことの危うさについて問題提起がなされました。

名古屋市教育センター情報教育部長  
加藤篤一郎氏

高等学校(普通科、商業科、工業科)における情報教育の経緯と現状報告とともに、今後の展望として、ICT環境整備に伴う各教科での利用拡大、情報モラルやセキュリティ教育の必要性、携帯電話活用について述べられました。

本学経済学部助教授  
児島完二

大学生の情報リテラシーが多様化している現状を踏まえ、「教育の情報化」がキーワードであり、学部教育との連動が重要との説明がありました。また、学生の学習意欲をどのように引き出し、自信をつけさせるか、学部教育の実践例を交えて話題提供がされました。